広報
かわち

発行所　河内村公民館
発行編集人　篠田彦次
印刷所　龍崎活版所

河内村合併後 大選擧区制による

才一回の村議選が行われた

天候に恵まれた去る二月十九日合併（旧四ケ村）後最初の村議会議員選挙が大選挙区制度により行われた。当日は出足も非常によく投票率も九〇・七六%を示した。即日開票の結果次の通りである。

河内村議会議員一般選挙投票一覧状況

区分 投票区分	選挙当日の有権者数			投票人員 普通投票			不在投票			計			投票率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
才1 源小	727	791	1.518	657	739	1 396	8	1	9	665	740	1.405	91.5	93.6	92.5
才2 生幼	509	555	1.064	459	507	966	2	—	2	461	507	968	90.6	91.4	91.0
才3 生小	524	577	1.101	479	526	1.005	1	1	2	480	527	1.007	91.6	91.3	91.5
才4 長小	544	630	1.174	496	587	1.083	5	2	7	501	589	1.090	92.1	93.5	92.8
才5 田川	204	210	414	185	184	369	1	—	1	186	184	370	91.2	87.6	89.4
才6 片巻	183	196	379	166	178	344	2	—	2	168	178	346	91.8	90.8	91.3
才7 金小	824	950	1.774	721	829	1.550	9	1	10	730	830	1.560	88.6	87.4	87.9
才8 十三間戸	212	246	458	192	215	407	—	1	1	192	216	408	90.6	87.8	89.1
合計	3.727	4.155	7.882	3.355	3.765	7.120	28	6	34	3.383	3.771	7.154	90.77	90.75	90.76

当選落選別	氏名	性別	党派	住所	得票数	年令	職業	新前元の別
当	郡司　清平	男	無所属	十三間戸	403	68	農業	新
〃	大古　省三	〃	〃	長竿	362	54	〃	前
〃	岡田　彰吉	〃	〃	源清田	343	43	〃	新
〃	中島　佐平	〃	〃	下加納	341	49	〃	〃
〃	成毛　妥雄	〃	〃	金江津	315	42	〃	前
〃	沼崎　正	〃	〃	生板	298	45	商業	〃
〃	桜井　喜一	〃	〃	金江津	291	65	農業	〃
〃	島田佐喜雄	〃	〃	手栗	281	40	〃	新
〃	石山　要	〃	〃	源清田	280.55	44	〃	前
〃	北口　高	〃	〃	生板	266	42	〃	〃
〃	青野　二郎	〃	〃	金江津	265	53	〃	元
〃	山本　武夫	〃	〃	源清田	265	61	〃	前
〃	宮本庸太郎	〃	〃	長竿	260	56	会社々長	〃
〃	古手　泰寿	〃	〃	生板	260	66	農業	〃
〃	田仲　長治	〃	〃	庄布川	253	51	〃	〃
〃	佐久間康三	〃	〃	田川	243	50	〃	〃
〃	大野　忠	〃	〃	生板	229.27	48	〃	〃
〃	秋山　要	〃	〃	片巻	229.60	51	〃	新
〃	福地　栄	〃	〃	大徳鍋子	229	42	〃	〃
〃	吉田　清	〃	〃	長竿	216	41	〃	元
〃	秋山　高	〃	〃	生板	204.83	54	会社々長	〃
〃	藤井　新衛	〃	〃	十三間戸	200	54	農業	新
〃	加瀬　光司	〃	〃	金江津	200	44	〃	元
〃	高松　四郎	〃	〃	生板	194	47	理容業	〃
〃	佐藤　一也	〃	〃	源清田	191	56	商業	前
〃	大野　多意	〃	〃	生板	190.72	58	商業	〃
次	関野　貴	〃	〃	〃	170	47	農業	〃
落	厚田　広	〃	〃	〃	146	54	〃	元

郡司清平

大古省三

岡田彰吉

中島佐平

成毛安雄

沼崎正

桜井喜一

島田佐喜雄

石山要

北口高

青野二郎

山本武夫

宮本庸太郎

古手泰寿

田仲長治

佐久間康三

大野忠

秋山要

福智栄

吉田清

秋山高

藤井新衛

加藤光司

高松四郎

佐藤一也

大野多意

開講された!!

河内農業短期大学

—聴講生一三八名—

河内村公民館では去る二月二十五日午後一時より長竿小学校大講堂に於いて農家短期大学開講式が盛大に挙行された当日は農家短期大学誕生の門出を祝福するかの様に一天曇りのない日本晴に恵まれた。式典は田中才二分館長の開会の言葉に始まり主催者代表篠田公民館長の挨拶、講師紹介があり当日講師として出席された元東京農業大学教授高松圭吉氏。千葉敬愛短期大学講師高仲東膺氏の今後の学習方法の抱負等があった。来賓として村教育委員長浅野秀雄氏の祝辞があり宮崎才六分館長の閉会の言葉を以って式を閉じた。なは講座内容は次の通りです

（必修課目）倫理、憲法、民法、経済学、農業統計、農政、農業経営、農業簿記、農業史、作物学、農産物販売及市場価格、農村社会、農業協同組合、農民文学、農業立地、畜産。農業本論、土壌肥料、病害虫及農薬、社会時評　其の他

（選択課目）保育、英語、生理学、栄養学茶道、着付、演劇、商法、漢文、性理学、生花、料理、心理学、生活改善、其の他

なお同大学は青年男女を対象として毎月才一、才三日曜日に公民館才三分館（旧河内村役場）に於いて開講致しますが三月の才二週目は都合により午後一時より長竿小学校に於いて開講致します。希望者は年令を問いませんから奮って聴講下さる様お願い致します。なお特別講師を中央より招いて行います才一回講座は去る三月六日（日曜日）午後一時より源清田小学校に於いて開設され憲法及び農業経営概論を行つた。

次回講座は

三月二十日午後一時
於長竿小学校

・・・・・農業経営概論
・・・・・農村文学です

同大学は生徒の自主的運営を主眼とし時間、科目、等については常に運営委員会に於いて協議する事を目的としておるので学級委員長及地区委員部落委員を選出した。

学級委員長	田中　勇	長竿
〃副委員長	岡野勝子	源清田
地区委員	牧山一信	生板
〃	山田　静	生板
〃	関野　亮	源清田
〃	鴻野文代	源清田
〃	宮本明幸	長竿
〃	藤崎正子	長竿
〃	中島昶功	金江津
〃	海保絹江	金江津

なお部落委員は紙面の都合上省略させていただ

新議員による
初の臨時村議会が行われた

河内村長青野隆一郎は昭和三十五年二月十五日午前十時臨時村議会を河内村役場に招集議決すべき事件全部可決確定し同日午後二時五五分閉会を宣した。

記

選挙才一号
一、議長選挙について
（臨時議長郡司清平提出）
議長、佐藤一也に決定
（銓衡委員による指名推せん）

定決才一号
一、議席の決定について
（議長提出抽せんによる）
1番島田佐喜男　2番古手秦寿
3番大野多意　4番石山要
5番沼崎　正　6番吉田清
7番中島佐平　8番桜井喜一
9番秋山　高　10番大古省三
11番北口高　12番宮本庸太郎
13番青野二郎　14番秋山要
15番藤井新衛　16番高松四郎
17番成毛妥雄　18番福智栄
19番加瀬光司　20番佐久間康三
21番佐藤一也　22番田仲長治
23番郡司清平　24番岡田彰吉
25番山本武夫　26番大野忠

選挙才二号
一、副議長選挙について
（議長提出）
副議長秋山高に決定
（銓衡委員による指名推せん）

選挙才三号
一、常任委員の選任について
（銓衡委員の指名による）
(1)、総務委員
宮本庸太郎、田仲長治、岡田彰吉、山本武夫、古手秦寿、桜井喜一、成毛妥雄、青野二郎、秋山高
委員長　桜井　喜一
副委員長宮本庸太郎
(2)、教育厚生委員
大古省三、石山要、大野忠、沼崎正、佐久間康三、藤井新衛、北口高、秋山要
委員長　石山　要
副委員長　大野　忠
(3)、経済委員
吉田清、島田佐喜男、大野多意、高松四郎、郡司清平、加瀬光司、中島佐平、福智栄
委員長　大野　多意
副委員長郡司　清平

選挙才四号
一、臨時出納検査立会人の選挙について
（左の通り決定議長指名による）
山本武夫、北口高、大古省三
青野二郎

議案才一号
一、33国災才一一〇号橋梁（学校橋）復旧工事請負契約について（村長提出）
地方自治法才二百四十三条二項の規定に基き議会の同意を求め左の通り請員契約の議決をなした。
一、契約金額壱百七拾万円也
一、請負人茨城県稲敷郡河内村大字源清田一、九四七番地　篠崎　七郎
一、契約期間
自昭和三十五年二月二十五日
至昭和三十五年三月二十五日
以上

東京近郊地
河内村における今後の農業経営と村政の方向

村長
青野隆一郎

此の度河内村長と致しまして新議会に対し深厚なる祝意と深甚なる敬意を表するものでございます。

私は議会と御協力のもと河内村発展の為に此の上とも努力致す考えであります。

つきましては私の村政に対する考え方の基本と大綱を申し述べる次才であります。才一に河内村は総戸数約二千四百戸、そのうち大部分の二千戸が農家でありまして農業をもって生計を営んでおるという事になり御承知の如く農村ということになるのであります。

戦後の農村の変ぼうと食生活の内容

戦後の農村は特に我々が今迄考えておりました処の常識をはるかに越えた外部的な諸条件によりまして完全に変ぼうして参ったのであります。これを少しく申し上げて見たいと思えます。才一に戦争前における国民一人当りの米の消費量は赤ん坊までがして一人一石と概算されておったのでありますが戦後特に最近は国民一人当りの米の消費量は八斗と減少して参っております。

その理由はひとつには文明と文化の向上が経済生活を豊かに致しまして、このような食生活の内容の変化をもたらしたのであります。又それと同時に国家的には社会福祉の問題が発展し、労仂問題も一歩々々解決されましてその経済生活に豊かさを増して参ったのでございます。エンゲル計数で申し上げるならば文明国と云われる国々は大体四〇乃至四三というそのパーセンテーヂでありますが最近私が得ました資料によりますと我が日本においても四五%という数字を示しておるのです。もとよりエンゲル計数は御承知の通りに国民一ケ月の生計費のうち食費のしめる部分でありまして文明国と言われる国々は当然四〇%代でなければならないのであります。けれども終戦後におきましてはこれが最高八五%を示し、そうとう長期間六〇%代を続けておったのでございますが最近の経済の安定は急速にそれを解消致しまして文明国並になったという事は非常に結こうな事でありますと同時に食生活の内容の変化は我々農民と致しましては実に重大なものがありましてこれを見逃す事はできません。ではこの食生活の内容の変化とはどういう事であるのかと申し上げるならば都市においては我々農村人が副食物と考えておる動物性蛋白を六八%とっており米は僅かに三二%であります。農村においてはどうかというとそれとは逆に七二%が米で動物性蛋白は二八%でございます。これは如何なる事を表しておるのかというと都市における処の生産増による収入増、経済生活の安定が都市においては非常に急速度に進んでおるということであります。その半面我々農村は相変らず牛の如き歩みを続けておるということになるのです。

これからの営農には広い視野と新しい技術を

しからば吾が河内村の営農状況はどうかと考える時、約二千二百ヘクタールの水田と約四百ヘクタールの畑であり、その水田において米作中心の営農と生活を致しておるのでありますから特に此の点に思えを致しまして、これからの河内村としての農業経営は如何にあるべきかということについて私は深く検討致しまして村政をその方向にもって行く必要が絶対であると考えております。われわれ農村に於いて田に米を作り、そして米を作っておられる方々は都市における食生活と余りにもへだたりがあり過ぎるということに気がつくならば我々は、その考え方及び生活を変えなければならないのは当然でありましょう。それ故に私は基本的に此の食生活の内容の変化に伴う処の農業経営の方向をも変えなくてはならないとこのような結論を考えておるのでございます。それならばこれに対して如何なる対策をこうずるべきかということになりますが、先づ一般農家の方方のものに対する考え方を広い視野にたって考えるだけの力をつけて頂くという事が先決の問題であります。その為に此の程河内村農家短期大学を開講致した次才でございます。又農業経営の本質についての考え方を新しい農業経営と新しい技術との問題を解決する為には土地改良を致しましてその土地を限られておる経営面積を充分に活用し、尚かつ生産力を維持増強すると同時に堪えず遅れない処の経済生活をし、それぞれの努力をする丈の方向を適確に指示し村政としてもって行き度いと考えるものでございます。

土地改良により生産力の増強を

そういう意味におきまして私は土地改良の問題を才一に村として考えなければならないと思うのであります。それにつきましては昨年暮に新利根川土地改良区所謂下流改良区五千ヘクタール、上流改良区二千二百ヘクタールが合同致しまして新利根川水系開発促進協議会ができましてこれによって予算獲得に努力して参ったのでありますが幸にも成功致しまして昭和三十四年度の総予算額は新利根川上流は二千一百八十四万円それに年度末調整と致しまして二百九十八万円の予算が追加されたのでございます、尚その上に昭和三十五年度には前古未曽有の八千八十四万円というぼう大なる予算を獲得致しまして新利根川土地改良区の改良事業に邁進できるようになったのでございます。又下流改良区におきましては骨幹事業としての排水工事が完成しておりますので次の工事としては用排水の支線をつくる為に区画整理に着工しなければならないと考える次才であります。此の問題は受益者の意見に従えまして着々区画整理の段階に突入するよう指導するつもりでございます。尚新利根川水系開発促進協議会は今年も又予算獲得と同時に農林省と話合えの上、畜産局及び経済局の耺員を此の地域に派遣して頂きそして基本的問題について対策を決めていたゞこうという事になっております。その関係上反当十円各町村五万円づゝ合計約百万円の予算を水系開発協議会に組みまして予算獲得運動と此の地域全体の新利川を中心と致しました農業開発発展の為に運営を致す事になっておるのであります。尚当面の問題と致しましては三十五年度には、県の指導要請によって、農協の合併ということになると考えております。これは昨年本県は単協合併に二十万円の助成金をだしておりますけれども今年の県の予算を見ますと十万円であります。それにしても町村合併ができた時に既に農協の合併は決定されておったのでありますから一日も早く大同団結致しまして立派な力のある経済力を持った農協を建設すべく施策をこうじ今年は努力をするつもりでございます。

有線放送により村民意志の疎通を計る

次に新農村建設計画の問題でございますが、三ケ年乃至五ケ年計画に従えまして県に報告することになっておりますが三十五年度と致しましては私は先般来調査を致しましたが結論として河内村全村に有線放送を完成し、村民全体の意志の疎通を計り一丸となって河内村発展に努力する基盤をつくり上げ度いと考えます又差当って経済建設と致しましては家畜センターをつくりまして経営面積の少さな農家の発展と今後の新しい農業経営の技術的指導にあたりたいと考えております。以上施政方針の大綱と河内村建設計画の目標を明示致しまして議員各位並村民各位の一層の御協力をお願い致す次才であります。

移動図書館巡回日

三月三十日
金江津駐車場　午後一・二〇～二・一〇
源清田〃　二・四〇～三・三〇
生　板〃　四・〇〇～四・五〇
前回お借りした人は三月二十七日までに返却して下さい。

新議長就任の挨拶
村政の円満なる運営は調和と協力が肝要

佐藤一也

村民各位に謹んで御挨拶申し上げます。

今回執行せられた村議会の改選に際し村民各位の御推せんと御支持により当選の栄誉を担われた選良二十六名の方々によって新議会が誕生いたしました。此の初議会において全会一致の御推せんを辱うし議長の要耺をおおせつけ戴きましたが私として誠に身に余る光栄と存ずる次才でありますと同時にその責任の重大さを痛かんしておるものであります。

申し上げる迄もなく河内村長が六月に就任され又新議会が成立したので一応村政は安定したわけでありますが要は車の両輪の如きこの二つの機関が如何に調和をとって村事の運営に万全を期するかに重大な責務がかせられて居るかを思わされるのであります。執行機関も議決機関も共に村民の代表府でありますので村民本位の心構えを以つて村事に当る事は申す迄もありませんがそれには調和と協力の必要であると思えます。一家の延長そのものゝ如き自治体が抗争の巷の如き態を呈する国政の如き状態を真似ては村政自治の向上は思えもよらぬことだと思えます。私は常に車は片輪では廻るものではないと心して執行部との連絡に又議会の運営に万全を期したいと存じます。四ケ村合併の産業村河内村も生声あげて三年の星霜は流れたが種々な面において合併の趣旨に基く村造り産業村として村民経済の上に貢けんすべき幾多の事業、村理事者の抱負経綸と相まって議会の仕事も山積されておる状態と思えます。私はこの重大な時局に要耺を得て誠に浅学非才の私が議員の方々や村民各位の御期待に添えるかどうか心配致しておるものであります。しかし乍らおおせつけ頂いた御高志に対して微力でありますが全力を傾注して御期待に添えたいと念願致しております。何卒御指導やら御鞭撻の栄を賜り度く切に御願え申し上げる次才です。

人生損益勘定（其の二）

高松圭吉

このあいだ、厚木市によばれて新農村建設について話をさせられたとき、実は理想的な農業経営をして居る家があるから見て貰えないだろうかということになった。早速車で飛んで行ってみると、そこの主人が出て来てやァということになった。同行した役場や団体の幹部が盛んに私を紹介していたら、主人がそれをさえぎって、いや十分存じ上げて居りますとやらかしたので一同バツの悪そうな顔をしていた。その主人の名は甘利正行さんと云い、四十を少し出た位の年恰好。種豚飼育ではこの附近にこれほどの技術を持った人はないらしく、こんど種豚の共同飼育を始めることになって、屋敷うちに豚舎を作り、その技術を十分役立たせることになった。現在共同豚舎を建設中だが、仔豚を入れるときは予防注射をしたものでないと入れないし、外に出すときも必ずそれをするというところから、他所で豚コレラが猛威をふるってもこゝではビクともしない。技術的なことは兎も角として、この人が、私の講演を度々聞いていることに驚いた。話の様子ではその他いろいろの講演会に出ているらしい。

一家の主人ともなれば仲々時間的に暇のないものだ。それでまあよくいろいろの会に出られますねと云ったら、いやあ元を仕込むんですから、それにはいくら時間を使っても良いと思います。その代りいざやるとなるとモタ〱している人の半分も時間がかゝりませんと答えていた。ついでに、私がちよいちよいいろいろの会に出ると、あいつは余程暇だろうとか、生意気だとか云われますとこぼしていた。そういう噂をする人は、大概、五分ですむ話を一時間位に引のばして、茶菓子が出るまでねばるか、いろりのふちで他人の云う事はかたっぱしけなしつけて酒のさかなにするような人だ。

余談じみた話だが、こっちは時間を切って人を訪ねると話の相手もしないで、台所に逃げる場合が多い。逃げるわけではないが、茶菓子よりも話が先の箸を、それを後廻しにされて、[illegible]る。河内でも茶菓子を出さずにチョイ〱と話が出来るようになりたいものだ。なあに茶菓子をつまむのは又別の時にすれば良い。座談会などの場合だってそうだ。かんじんの話をして居るときに菓子を買いに行ったり、後の方で勘定してみたり、お茶の会ならそれでも良いが、随分人を食った…いや菓子を食った話だ

こんど農家短期大学が始まった。恐らく、そのうちに、家が忙しいのにカバンかゝえて以てのほかだとか、折角勉強するなら明日役立つようなものを習って来いという人が出て来るだろう。それで、そう叱られて、いやいや田圃に出て能率が半分も上らないという事になるのぢやないか。

短期大学で朝から講義しようと云ったら、それはとても出来ないだろうと云う声があった。月に二日位、ギシッと勉強する日があって良いぢやないか。厚木の話ぢやないがもとを仕込む日だから、その日は朝から晩までヒヤ汗を流してみると良い。

新潟の青年が、大人達を説きふせて村一本の農休日を作ったが、初めのうちは、やれ時間が勿体ないとか、うちは手間がないから皆と一緒にや休めないとか、様々文句を云っていた人達が、やってみてこりや良いと云うことになった。休日の前の日と翌日は普段の倍能率が上るそうである。

河内村にも農休日がほしいという声は青年団からも出ている。時間をつかうという事に人生の損益勘定をすれば、学べるときには学べ、休むときには休め、それは時間の無駄使いのようで実際は無駄使ぢやない。もとを仕込み、労仂の拡大再生産をする上に是非とも必要なことだということになる。

あとがき

今月号より毎月十五日発行にいたしましたという事は一ケ月のうち半分を報告欄にし残る半分をこれからの欄にした方がみなさんに知って頂く上に都合がよさそうである。広報連絡協議委員のことでありますが四月中にきめる計画です。

春です!! 火の元戸締りに御用心!